



病院A棟と手稲山

手稲溪仁会病院

小児科専攻医研修プログラム



手稲駅周辺と病院全景

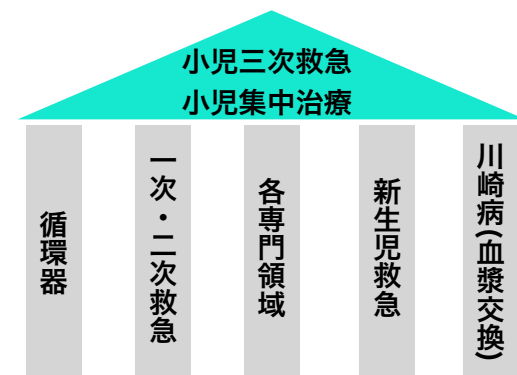
病院 & 小児科について

手稲溪仁会病院について

手稲溪仁会病院は札幌の北西部に位置し、全病床数 670床で、うち小児病棟 27床、NICU 6床、GCU 6床、ICU (小児用ベッド) 4床を有し、ドクターヘリ基地も併設した急性期型の大規模病院です。

どんな小児科？

- ・道央圏もしくは北海道の小児重症疾患の救急・集中治療を担うことを最重点業務としています。
- ・設立当初から小児循環器診療を行っており、循環器疾患の患者さんも数多く診療しています。
- ・地域周産期母子医療センターに認定されています。
- ・重症の川崎病に対する血漿交換療法を行っており、遠方からの患者さんも受け入れています。
- ・また、重症小児の診療をメインにしつつも、小児科全体が裾野を拡げて多種多様な疾患に対応しています(図)。
- ・それと同時に各員が小児科医として充実し幸福となれるようお互いを尊重し、助け合える医療チームを目指しています。



図：小児科運営コンセプト

院内標榜科（小児科医が兼務する小児医療チーム）

小児科内で以下のようなチームを編成しています。

・小児集中治療科

重症小児の救急対応及び集中治療を行います。

・小児循環器科

胎児診断も含めた先天性心疾患の管理や、後天性心疾患の診断治療を行います。

・NICUとGCU（母子はぐくみセンター）

新生児救急対応を目的としたユニットです。

・重症小児搬送チーム

重症小児患者の搬送を担うチーム。医師&看護スタッフのチーム丸ごと紹介元病院に赴き、患者の搬送前の評価・準備からドクターカー、ドクターヘリ、ドクタージェットなどによる搬送まで行います。



ドクタージェットによる患者搬送

小児科専攻医研修プログラムについて

研修のゴール

当院が特に重きを置いている、小児科専攻医研修のゴールは以下のようなものです。

- ・ 内科系、外科系を問わず、どんな重症な小児にでも初期対応及び集中治療が出来る。
- ・ 早産・低出生体重児も含めた新生児に対応出来る。
- ・ 分野を問わず、ゼネラリストとしての正しい知識・技術を持った小児科医である。

年次毎の研修スケジュール

当院では各学年3名での研修を行います。2年目は院外研修となりますので最多でも6人の少数精鋭主義の指導を行っています。

1年目(卒後3年目以降)

まずは手稲溪仁会病院で小児診療の基本をしっかりと習得します。慣れて来たら、当直業務にも行います。当直ははじめは上級医のバックアップ付きで行い、実力がつけば日直も入れて月6回程度になります。外来診療の研修も行います。

2年目

院外研修は各自の希望を聴き、主に以下の3病院で研修します。

1) 北海道小児総合医療センター

高次医療が必要な疾患、新生児外科疾患などを研修します。とくに**麻酔科**での研修は非常に有意義なものです。

2) 市立札幌病院NICU

道内最先端・最大のNICUで超低出生体重児診療を中心に研修が可能です。

3) 札幌北榆病院

血液腫瘍疾患について研修します。

4) さらに、希望があれば道外提携病院（北九州市立八幡病院、神戸市立医療センター中央病院、松戸市立総合医療センター）での研修も可能です。

3年目

院内・院外での研修を終えて、いわばチーフレジデントとなり、実力を発揮しつつさらなる研鑽を行います。各診療チームのリーダーとなります。また地域医療研修の目的に函館中央病院での短期研修も可能です。

教えかたと習いかた

チーム制

主治医チーム制による診療を行うことで上級医からのマンツーマンの指導が受けられるようにしています。重症疾患のみならずcommon diseaseにも正確に対応出来るように指導しています。専攻医は各チームにローテーション形式で配属されます。

【小児科 6月 主治医チーム表】			
ローテーション期間：6 / 3 (月) ~ 6 / 30 (日)			
小児科病棟 A	小児科病棟 M	ICU	新生児病棟
荒井	野上	長谷山	岩田
PGY2 寺田	奥村	田村	那須
(田村)	PGY1 河村	和田	長谷山
		松元	黒江

月ごとの予定表



小児科病棟チーム



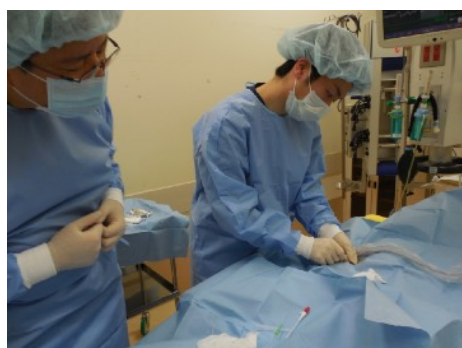
ICUチーム



NICUチーム

手技習得を重視

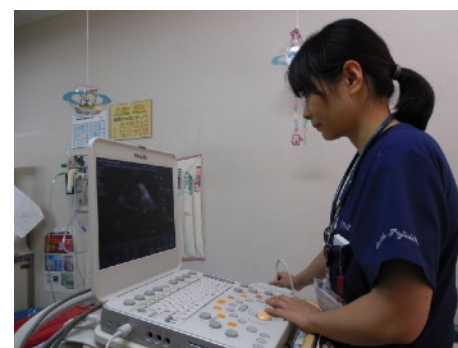
基本的手技をはじめとして、重症管理には欠かせない呼吸器管理や中心静脈確保、心臓、腹部をはじめとする超音波検査などの手技を確実に習得出来るように指導します。



中心静脈カテーテル挿入



NICUでの新生児への処置



心臓エコー検査

カンファレンス重視

毎日行うカンファレンスで全員が全患者さんについて把握するとともに治療方針についても全員で議論するようにしています。その中で、ただマニュアルに準じて行動するのではなく、ひとつひとつの事象や問題点についてしっかり自ら考える習慣をつけられるように指導します。



毎朝のカンファレンス



ICU回診



NICU回診

教えて身につける

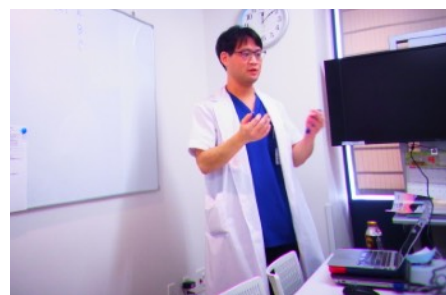
研修3年目にはチームのリーダーとなり、後輩を指導します。また、自分の習得したことを発表したり、PALSのインストラクター役になるなどして、自分の知識や経験を実践するとともに後輩の指導やスタッフ同士の研鑽にも寄与します。



病棟チームリーダー



お昼のカンファレンスでのレクチャー

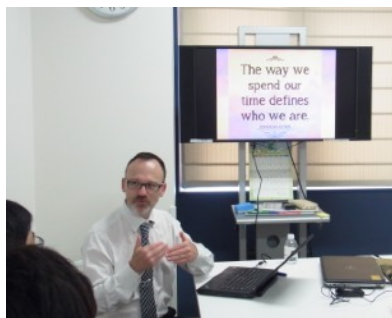


グローバルな視野

将来の全国的、さらには国際的な活躍も視野に入れた指導や交流も行っています。



外国人医師との病棟回診



RAN教授
(ブリティッシュコロンビア小児病院)
のレクチャー



年1回の提携病院とのブートキャンプ
(2019年、札幌芸術の森にて)

今までの後期(小児科専攻)研修者とその後の進路

全国から集まった若い医師達が、当院での研修で得られた知識や経験を十分に生かし、道内外を問わず各地で活躍しています。重症疾患に関わることの多い領域に進むことが多いようです。

卒業大学 (人数)

北海道大(5)、旭川医大(2)、慈恵医大(2)、筑波大(2)、横浜市大(2)、信州大(2)
札幌医大(1)、山形大(1)、福島医大(1)、埼玉医大(1)、東京医歯大(1)、順天堂大(1)
慶応大(1)、金沢大(1)、神戸大(1)、久留米大(1)、琉球大(1)

初期研修場所 (人数)

当院(21)、他院(5)、道内(4)、道外(1)

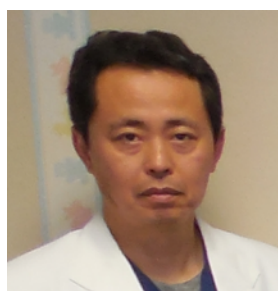
現在の専門領域 (人数)

集中治療(6)、神経(4)、新生児(3)、在宅医療(3)、アレルギー(2)、循環器(1)
腎臓(1)、麻酔科(1)、血液(1)、未定(4)

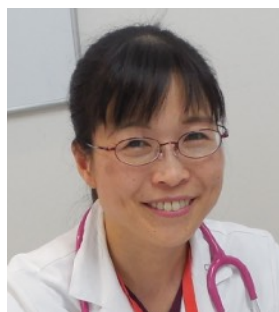
現在の赴任地 (人数)

道内(8)(当院3)、道外(16)、米国(1)

スタッフ医師紹介



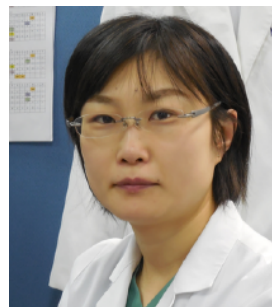
岩田正道 (昭62)
母子はぐくみセンター長
専門：新生児



大谷杏奈 (平16)
主任医長
専門：アレルギー



南雲 淳 (平元)
小児科主任部長
専門：川崎病・循環器



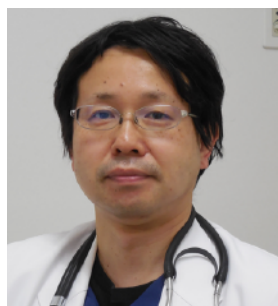
及川純子 (平18)
主任医長
専門：アレルギー



上野倫彦 (平3)
副部長
専門：循環器



和田宗一郎 (平20)
医長
専門：救急・集中治療



長谷山圭司 (平5)
副部長
専門：循環器・救急



荒井勇人 (平26)
医員



那須 敬 (平5)
副部長
専門：新生児



野上正雄 (平26)
医員



齋 秀二 (平11)
主任医長
専門：内分泌



田村卓也 (平13)
主任医長
専門：集中治療・救急
・呼吸器

小児科専攻医

松元 献 (平26)
奥村 遼 (平29)
黒江 俊秀 (平28)

(院外研修中)
齋藤 光里 (平28)
中野 貴明 (平28)



手稲溪仁会病院小児科

連絡先：

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号

臨床研修委員会事務局

E-Mail：【tkh-senmoni@keijinkai.or.jp】

電話：011-685-2931（直通）

電話：011-681-8111（代表）

FAX：011-685-2926